



## 大人の歯が生えかわらないのはなぜ

### 子どもの歯が生えかわるのは

子どもの歯は、だれでもいちどぬけて、大人の歯に生えかわります。子どもの歯の下に、大人の歯ができてくると、子どもの歯はおし上げられ、ぬけてしまうのです。

子どもの歯は、生まれて7か月ごろから生えはじめ、3才ごろには20本になりますが6才くらいになると、生えかわります。

赤ちゃんや6才くらいまでの子どもの頭と、大人の頭の大きさを比べると、ずい分、大きさがちがいます。頭が大きければ、歯の生えているあごも、当然、大きくなります。

歯は、すき間なく、あごの骨に並んでいなければなりません。ところが、小さい子どものときに生えていた小さい歯は、あごが成長して大きくなっても、ほとんど成長しないため、そのままでは、すき間だらけの歯になってしまいます。そのため、大人のあごの大きさに合わせた、大きな歯に生えかわるのです。

### 歯は、いちどしか生えかわらない

歯は、大人のあごの大きさに合わせた、大きな大人の歯になると、もう、生えかわる必要がないため、生えかわりません。歯は、いちどしか生えかわらないのです。

大人の歯は、本数も多くなります。子どもの歯は全部で20本ですが、それが生えかわって大人の歯になると、おく歯が生えてきて、ふつう、全部で32本になります。

しかし、中にはいちばんおくに生えてくる、「親知らず」という歯が生えてこない人がいます。そういう人の歯は、全部で28本です。（監修・保志 宏）

